HOKUGA 北海学園学術情報リポジトリ
学校法人北海学園
北海学園大学
北海商科大学

タイトル	日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」に関する考察 ： 日韓対照の観点から
著者	李，鳳
引用	北海商科大学論集，11(1)：28-41
発行日	2022-02-20

Hokkai-Gakuen Organization of Knowledge Ubiquitous through Gaining Archives.

 受理日:2022/02/20

日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」に関する考察
―日韓対照の観点から―
A study of the Japanese procedural phrase "~(sa)sete itadaku"
―From the viewpoint of Japanese-Korean language contrast―

李　鳳　LEE, Bong

要旨

これまで日本語の「～(さ)せていただく」は、韓国人日本語学習者にとって日本語独特の表現として知られており、間違いやすく、習得しにくい表現として取り扱われてきている。また、その習得における誤用の実態は報告されているが、対照言語学的観点からの考察はあまり行われていなかった。そこで、本研究では、日韓対照の観点から日本語の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を考察した。李鳳(2020a)で用いた Searle(1979)の発話行為理論における発語内行為の分類に基づいて、「～(さ)せていただく」に対応する韓国語を考察することを試みた。その結果、断定型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語は、「하다(hata)」であり、指示型と拘束型と宣言型に対応する韓国語は、共通して「하다(hata)」または「하겠다(ha-keyss-ta)」という表現で現れることを示した。

キーワード：「～(さ)せていただく」、発話行為、発語内行為、日韓対照

Abstract

The Japanese "~(sa)sete itadaku" is regarded as an expression unique to the Japanese language, and is a phrase that Korean learners of Japanese often make mistakes with and have difficulty learning. Although several papers have been written on its misuse by Korean learners of Japanese, there have been few studies on its usage from the viewpoint of contrast linguistics. The purpose of this study is to examine Korean language corresponding to the Japanese phrase "~(sa)sete itadaku" from the perspective of Japanese-Korean language contrast. Based on Searle's (1979) classification of illocutionary acts in speech act theory, also used in Lee, Bong (2020a), Korean language corresponding to the Japanese phrase "~(sa)sete itadaku" was examined. It was found that Korean language corresponding to assertive illocutionary acts involving the phrase "~(sa)sete itadaku" is "hata" and that Korean language corresponding to directive, commissive and declaration illocutionary acts involving the phrase "~(sa)sete itadaku" are "hata" or have "ha-keyss-ta" in common.

Keywords："~(sa)sete itadaku", speech act, illocutionary act, Japanese-Korean contrast

 受理日:2022/02/20

1. はじめに

日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」は、元来「～させて（使役)」+「いただく（恩恵)」から構成されており、相手に許可を求め、ある行為を相手に遠慮しながら行うことを表す表現として知られている。特に現代では日本人の敬語意識が変化しているという議論の中、好みや程度の問題といったレベルを通り越して「～(さ)せていただく」が頻繁に使用されている。「～(さ)せていただく」は、100 年以上前から使われてきている言い方であるが、1990 年代にその使用が拡大し、本来の敬語が負いきれない敬意を、「あげる」・「もらう」を表す授受動詞が代わりに担っているような状況で、古くから伝わる敬語の枠外にある別の類の敬語のように位置づけられている(椎名 2021、椎名 2022)。また、椎名(2021、2022)によると、「～(さ)せていただく」は、現にワンフレーズとして考えてよく、日本社会の変化、人間関係における距離感の変化、日本語の敬語の変化の決着点におかれ、他人と社会的距離を保ちたいと思う現代日本人のコミュニケーションへの思考の筋道が反映されている表現だと説明されている。

一方、日本語の「～(さ)せていただく」を韓国語に直訳すると「～시켜서 받다(～siky-ese patta)」となるが、これは韓国語母語話者にとっては理解し難い表現になってしまう(김용각 2017)。김용각(2017:106)は、「～(さ)せていただく」を韓国語で翻訳する場合、「～하다(～hata：する)」が意味的に最も近いと述べている。

日本語の「～(さ)せていただく」が基本的に持つ「相手の許可（恩恵）を得ることによって二重に敬意を払う」(菊池 1997)、「相手に恩恵を受けるかのように表現する」(井上 1999)といった意は、韓国人日本語学習者にはなかなか納得しにくい言語意識であるように思われる。

「～(さ)せていただく」に関する日韓対照研究は、これまであまり注目されてこなかった主題であるように思われる。筆者が調べた限り、上記の김용각(2017)の簡単な指摘の他に、日本語の「～(さ)せていただく」を機械翻訳で処理すると韓国語では「～시키다(～sikita：させる)」、「～드리다(～tulita：差し上げる)」のような本来の意味とは違う翻訳結果が算出される問題点が報告されている(李吉遠 2010)。また、日本語教育分野において日本語学習者にとって「～(さ)せていただく」は、日本語独特の表現であり、習得しにくい文法項目として取り上げられ、その誤用の実態が報告されている程度に留まっている（魚秀禎 2011、김용각 2013)。そこで、本研究では、日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を、Searle(1979)の発話行為理論における発語内行為の分類に基づいて考察することを目的とする。

本研究の構成は以下の通りである。まず、2 節では、これまでの研究において「～(さ)せていただく」に関する先行研究を簡単に概観し、特に Searle(1979)の 5 つの発語内行為の分類に基づき、「～(さ)せていただく」を分析した李鳳(2020a)の研究を簡単に紹介する。次に、第 3 節では、李鳳(2020a)の分析を基に、「～(さ)せていただく」の各発語内行為に対応する韓国語の表現を考察する。最後に、第 4 節では、まとめと今後の課題を述べる。

2. 先行研究

「～(さ)せていただく」は主に日本語学の分野で 1990 年代以降その使用拡大と共に議論が行われてきている(井口 1995、菊地 1997 など)。主に物のやりとりを表現する授受動詞のカテゴリーの中で論じられながら、その使用拡張と共に最近さらに注目されている(井口 1995、菊地 1997、茜 2002、宇都宮 2005、塩田 2016、滝浦 2016、李鳳 2020a、李鳳 2020b、椎名 2021、椎名 2022)。中でも椎名(2021)の研究は、「～(さ)せていただく」を「補助動詞用法体系の変遷」と「敬意漸減の歴史」の中で観察する必要があることが示されている。また、歴史社会語用論的アプローチとポライトネス理論を用いて詳しく考察がなされている。さらに質問紙による意識調査とコーパス調査が行われ、使用の実状が把握され、「～(さ)せていただく」の共時的特徴と通時的変化の結果を歴史社会語用論的観点から奥深く考察されている。

また、「～(さ)せていただく」のみを対象としているが、日本人の言語学者のみならず、韓国人の言語学者によっても 2010 年代以降、考察が始まっている（鄭秀賢・崔善喜 2010、李鳳 2020a、李鳳 2020b)。ところが、日韓対照の観点から日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」を理論的な枠組みを用いて考察したものは殆ど見当たらない。主に日本語教育の習得分野で韓国人日本語学習者にとって授受の補助動詞の習得の難しさがしばしば指摘されているが、その中で「～(さ)せていただく」の習得問題が取り上げられている程度である(魚秀禎 2011、김용각 2013)。

まず、魚秀禎(2011:103)は、授受の補助動詞にさらに敬語的な要素が加えられた「～ていただく」、「お～いただく」、「お～になっていただく」、「～(さ)せていただく」のような表現を学習する時、ほとんどの韓国人日本語学習者が非常に大きな戸惑いを感じ、理解に苦しむと述べている。そして、韓国人日本語学習者を対象として「～てくださる」系や「～ていただく」系、「～(さ)せていただく」系の語形についての理解度を調査し、またそれを使い分けるための基準を示している。そして、「～てくださる」系と「～ていただく」系を使い分ける時の基準として、恩恵の与え手が主語になる場合には「～てくださる」を、恩恵の受け手が主語になる場合には「～ていただく」を用いることを示した。また、「～て」系と「～(さ)せて」系の使い分けは「行為の主体」を判断基準とし、「行為の主体」が恩恵の与え手である場合には「～て」を、「行為の主体」が恩恵の受け手である場合には「～(さ)せて」を用いることを示している。

次に、김용각(2013)も魚秀禎(2011)と同様に「～ていただく」系が韓国人日本語学習者の敬語教育において間違いやすい表現の一つであると指摘している(김용각 2013:2)。そして、実際に韓国人日本語学習者の「～ていただく」の使用における誤用を分析し、そこから効果的な指導方法を示している。特に日本語の「～(さ)せていただく」表現に対する韓国人日本語学習者の誤用としては、「お(ご)～いただく」表現と混同して使うケースが少なくなく見られる点が報告されている。そして、「～(さ)せていただく」は、話者自身の行為にあたる「～する」を謙譲表現にしたものであるため、話者自身の行為や動作に用いるということを

学習者に確実に理解させなければならないと論じている。

最後に、李鳳(2020a)の研究は、日韓対照の観点から行われたものではないが、日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」のみを Searle(1979)の発話行為理論を用いて論じたものである。また、「～(さ)せていただく」の用法を論じた先行研究の中では、理論的な枠組みから分析を試みた最初のものである。発話行為理論は、すべての言語現象を説明できる万能なものではないが、語用論の研究分野では依然として重要な理論の一つであり、日韓対照語用論の研究分野においても最近用いられている。

本研究でも、同様に発話行為の観点から同じく Searle(1979)の発話行為理論を用いて発語内行為(illocutionary act)の分類に基づき「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を分析するため、ここで簡単に紹介する。

李鳳(2020a)では、これまでの研究では「～(さ)せていただく」が具体的にどのような発話行為と共起するかに関して明確に考察されていなかったため、「～(さ)せていただく」と命題との共起関係を示した。Searle(1979)は、発語内行為のタイプを断定型(assertives)、指示型(directives)、拘束型(commissives)、表出型(expressives)、宣言型(declarations)の 5 つに分類しているが、これらは、発語内目的、適合の方向(direction of fit)、表現される心理状態の 3 つを基準として分類されている。李鳳(2020a)は、Searle(1979)の発語内行為の分類を用いて「～(さ)せていただく」の共起を以下のように示した。

＜表 1＞ 発語内行為と「～(さ)せていただく」の共起

発語内行為分類	「～(さ)せていただく」
断定型(assertives)	○
指示型(directives)	○
拘束型(commissives)	○
表出型(expressives)	×
宣言型(declarations)	○

(「○」は、共起することを、「×」は共起しないことを示す。)

(李鳳 2020a:32)

上記の＜表 1＞のように Searle(1979)の発語内行為の分類を用いて分析してみた結果、「～(さ)せていただく」は、断定型と指示型と拘束型と宣言型の 4 つの発語内行為と共起することが解った。しかし、真偽値も存在せず、空の適合の方向を持ち、単なる話者の心的状況を表すといった表出型の発語内行為とは共起しないことが明らかになった。さらに、李鳳(2020b)では、断定型、指示型、拘束型、宣言型の発語内行為における「～(さ)せていただく」の語用論的機能を、ヘッジ(hedge)という概念を用いて説明した。ヘッジは、命題と発話行為に対して話者の限られた関与やコミットメントを伝えて発語内の力(illocutionary force)を軽減する働きをする(Lakoff 1972、Fraser 1975、Fraser 2010、Brown & Levinson 1978/1987、Itani 1996 など)。そして、上記の 4 つの発語内行為において「～(さ)せていただく」

が発語内の力を修正する働きをし、話者が自分の発話の真実性について完全な責任を負わないことを示唆する「質の原則(Maxims of quantity)」に対するヘッジであることを論じた。

そこで、本研究では、李鳳(2020a)で用いた Searle(1979)の発話行為理論における発語内行為の分類に基づいて、「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を考察する。なお、本研究は、李鳳(2020a)、李鳳(2020b)を含む研究の一部を構成するものである。

3.「～(さ)せていただく」に対応する韓国語

ここでは、Searle(1979)の 5 つの発語内行為の分類に基づき、「～(さ)せていただく」に対応する韓国語を示す。特に、李鳳(2020a)で示したように、断定型、指示型、拘束型、宣言型の 4 つの発語内行為における「～(さ)せていただく」の用法に対応する韓国語をそれぞれ考察する(Searle(1979)の発話行為理論及び発語内行為に関する詳細な説明は、李鳳(2014)と李鳳(2020a)を参照されたい)。

本研究では皮肉や冗談のような非規範的使用は考察の対象とせず、「～(さ)せていただく」の使用拡大に伴う用法の「正用・誤用」及び「好み」の問題に関しても議論を行わない。

3-1 断定型のに対応する韓国語

断定型の発語内目的は、現状世界の事実のあり様を言葉を用いて表すことであり、真偽値を持ち、事実に関する命題が真であることに話者が責任を負うことになる(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。簡単に言うと、事態や状況を記述することや、情報を提供することのように、すでに存在している事態・状況に合わせて命題を述べることになる。そして、「言葉を世界へ」の適合の方向を持ち、話者は自分が述べる命題に対する信念を持っていなければならない。そのため、命題に対する信念を表し、陳述、主張、報告などがその範疇に入る(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。

李鳳(2020a)では、日本語の「～(さ)せていただく」は断定型の発語内行為と共起することを示した。次の例を見てみよう(以下の用例は作例による)。

(1) a. このたび、北海道を旅行させていただきました。
　　b. 一緒にゴルフをさせていただきました。

まず、(1a)は、「このたび、北海道を旅行した」という事実を述べており、命題が真であることに話者が責任を負うことであり、「～(さ)せていただく」が共起している。また、(1b)も「一緒にゴルフをした」という過去の経験を言葉で表しており、(1a)と同様に命題が真であることに話者が責任を持つことである。このように(1a)(1b)の命題は、それぞれ事実の有様を表象し、世界に存在する事態の有様に適合している。つまり、「～(さ)せていただく」は、断定型の発語内行為と共起することがわかる。

次に、断定型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を見てみよう。(2a)(2b)は

(1a)(1b)の日本語に対応する。なお、本研究における「??」という記号は、その用例がかなり不自然であることを示す（以下も同様である)。

(2) a. ?? 이번에 홋카이도를 여행시켜서 받았습니다.
ipen-ey hoskaido-lul yehayng-siky-ese pat-ass-supnita.
a'. 이번에 홋카이도를 여행했습니다.
ipen-ey hoskaido-lul yehayng-hayss-supnita.
(このたび、北海道を旅行しました。)
b.?? 같이 골프를 시켜서 받았습니다.
kathi kolphu-lul siky-ese pat-ass-supnita.
b'. 같이 골프를 했습니다.
kathi kolphu-lul ha-yss-supnita.
(一緒にゴルフをしました。)

一方、(2a)(2b)からわかるように、(1a)に対応する韓国語の(2a)は非常に不自然で違和感が生じ、「～(さ)せていただく」を韓国語に直訳した「~시켜서 받다(sikyese patta)」は用いない(김용각 2017:105)。日韓両言語の授受表現に関する従来の研究では、このような「対応関係の不一致」はしばしば指摘されてきているが（林八龍 1980、金銀珠 2010 など)、韓国語では(2a')のように「하다(hata)」だけで十分である。旅行のような心身をゆったりと休める行為は、本来、自らの意志で自由に決めることである。この場合、日本語では「～(さ)せていただく」を用いて話者が上品に伝えることも可能であると考えられるが、対応する韓国語では、正々堂々と自分の意志で旅行してきたことを潔い態度で伝えるのが自然である。また、(2a')では、「ます」を意味する「ㅂ니다(pnita)」が「하다(hata)」に後続されており、丁寧さにも問題がない。つまり、(1a)の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現は「하다(hata)」であることが解る。同様に、(1b)に対応する韓国語の(2b)も非常に不自然であり、共に運動をした過去の経験を敢えて誰かの恩恵を受けてしたかのように表現せず、淡泊に陳述すればよく、(2b')のように話者自身の行為を表す「하다(hata)」だけで言い切るのが自然である。김용각(2017:106)は、「～(さ)せていただく」を韓国語で翻訳する場合、「～하다(～hata)」が意味的に最も近いと述べているが、これらの結果はそれを裏付けていると考えられる。

以上のように、断定型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語は、「하다(hata)」であることがわかる。

3-2 指示型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語

指示型の発語内行為の発語内目的は、これからある行為を聴者に実行させようとする狙いで命題を表現し、この発語内行為が充足されるのは、世界がその命題に適合するように変化させられるということであるため、「世界を言葉に」の適合の方向を持つ(Daniel 1994(久

保訳 1995)、Yang 2007)。また、話者は、聴者の行為に対する欲求や願望の心理状態を表し、依頼、命令、助言、要求、懇願などがその範疇に入る(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。

李鳳(2020a)では、日本語の「～(さ)せていただく」が指示型の発語内行為と共起することを示した。また、指示型は、李鳳(2014、2020a)で説明したように間接発話行為に現れることが多い。次の例を見てみよう。

(3) a. すべての面会を禁止させていただきます。
b. では、書類を確認させていただきます。

(3a)は話者が聴者に「面会禁止」という行為を行わせようとすることであり、(3b)は聴者に「書類を確認する」という行為を許可してもらおうとすることである。(3a)(3b)はそれぞれ話者の要求や依頼を表しており「～(さ)せていただく」が指示型の発語内行為と共起することがわかる。

次に、指示型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を見てみよう。(4a)(4b)は(3a)(3b)の日本語に対応する。

(4) a. ?? 모든 면회를 금지시켜서 받습니다.
motun myenhoi-lul kumci-siky-ese pat-supnita.
a'. 모든 면회를 금지합니다.
motun myenhoi-lul kumci-ha-pnita.
(すべての面会を禁止します。)
b.?? 그러면 서류를 확인시켜서 받습니다.
kulemyen selyu-lul hwakin-siky-ese pat-supnita.
b'. 그러면 서류를 확인하겠습니다.
kulemyen selyu-lul hwakin-ha-keyss-supnita.
(では、書類を確認致します。)

一方、(4a)(4b)からわかるように、(3a)に対応する韓国語の(4a)は非常に不自然で違和感があり、断定型と同様に韓国語では対応する文で「~시켜서 받다(sikyese patta)」という表現は用いない。面会禁止という行為は、聴者の自由を奪う行為である。ところが、韓国語では、(4a')のように「하다(hata)」に丁寧さを表す「ㅂ니다(pnita)」を付けた表現で特に失礼にならない。つまり、(3a)の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現は、「하다(hata)」であることがわかる。このように韓国語では、禁止命令を行う際に、「ㅂ니다(pnita)」といった丁寧さを表すマーカーが一回あれば十分で、ストレートに表現できると思われる。また、(3b)の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の(4b)も非常に不自然であり、(4b')のように「겠(keyss)」という形態素が加わった「하겠다(ha-keyss-ta)」を用いる。韓国語の形態素の「겠(keyss)」には、大きく「推量」、「意志」、「婉曲」、「強調」のような意味があることが知

られているが(李憲郷 2009)、ここでは「意志」や「婉曲」の意味を表すと思われる。相手の書類を確認することは、明確に許可が必要な行為であるが、「겠(keyss)」がかしこまった意を示していると考えられる。このように、相手の領域を侵害するような行為においても、韓国語では、丁寧すぎる表現は用いず、「하겠다(ha-keyss-ta)」を用いて一直線に内容を伝えるのが自然であると考えられる。

以上のように、指示型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現は、「하다(hata」または「하겠다(ha-keyss-ta)」であることがわかる。

3-3 拘束型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語

拘束型の発語内行為の発語内目的は、話者がこれからある行為を行うことについて自らを拘束するという目当てで行われる(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。話者が所定の行為を行う義務を負い、話者自身がそれを行うことである。この発語内行為が充足されるのは、世界がその命題に適合するように変化させられるということである。つまり、「世界を言葉に」の適合の方向を持ち、表現される心理状態は意図であり、約束、提供、協力などがその範疇に属する(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。

李鳳(2020a)では、日本語の「～(さ)せていただく」は拘束型の発語内行為と共起することを示した。次の例を見てみよう。

(5) a. 全品、30%の値引きをさせていただきます。
b. 明日までに課題を提出させていただきます。

まず、(5a)は「全品、30%の値引きをする」ことを告げることが目的となっており、話者がその提供の義務を負う目当てで行われる。また、(5b)は、「明日までに課題を提出する」ことを告げることを目的とした約束行為であり、話者はこれらの行為の遂行に義務を約束することになる。このように「～(さ)せていただく」は、拘束型の発語内行為と共起する。

次に、拘束型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を見てみよう。(6a)(6b)は(5a)(5b)の日本語に対応する。

(6) a. ?? 전제품 30% 할인을 시켜서 받습니다.
cen-ceyphum 30% halin-ul siky-ese pat-supnita.
a'. 전제품 30% 할인을 합니다.
cen-ceyphum 30% halin-ul ha-pnita.
(全品、30%の割引をします。)
b.?? 내일까지 과제를 제출시켜서 받습니다.
nayil-kkaci kwacey-lul ceychwul-siky-ese pat-supnita.
b'. 내일까지 과제를 제출하겠습니다.
nayil-kkaci kwacey-lul ceychwul-ha-keyss-supnita.
(明日までに課題を提出致します。)

一方、(6a)(6b)からわかるように、(5a)に対応する韓国語の(6a)は非常に不自然で違和感が生じ、断定型と指示型と同様に韓国語では対応する文で「~시켜서 받다(sikyese patta)」は用いない。(5a)の「割引をさせていただく」は、韓国語では、(6a')のように「할인을 하다(halin-ul ha-ta : 割引をする)」に対応する。つまり、この場合、「～(さ)せていただく」は韓国語では「하다(hata)」に対応する。約束という行為は、その約束内容を話者が責任を取って遂行することを意味する。韓国語の方では、「하다(hata)」でキッパリと言い切り、提供事項を自ら守ることを示す表現になっていると考えられる。また、(5b)に対応する韓国語の(6b)も非常に不自然である。日本語では課題提出の延期に関する許可を得るという考えを基にして「～(さ)せていただく」が使われると考えられるが、この場合、韓国語では恩恵の意識は出さず、(6b')のように「겠(keyss)」という形態素が加わった「하겠다(ha-keyss-ta)」を用いる。ここで用いられている韓国語の形態素「겠(keyss)」は、指示型で述べられたのと同様に「意志」や「婉曲」の意味を表す。このように韓国語では、かしこまって、丁寧に課題提出の約束の意志を述べることが自然であると考えられる。

以上のように、拘束型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語は、「하다(hata)」または「하겠다(ha-keyss-ta)」があることがわかる。

3-4　宣言型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語

宣言型の発語内目的は、ある対象の状態の有様に何らかの変化をもたらすという狙いで命題を表現することであり、発話と行為の遂行との間に同時性が見出される(Daniel 1994(久保訳 1995)、Yang 2007)。また、命題が世界に適合していることを言うことによって、世界を命題に適合させることであるため、「言葉を世界に」と「世界を言葉に」の双方向の適合の方向を持ち、戦争宣言、宣告、解雇、推薦、任命、譲渡、見積もることなどがその範疇に属す(Yang 2007、山岡 2007)。

李鳳(2020a)では、日本語の「～(さ)せていただく」は宣言型の発語内行為と共起することを示した。次の例を見てみよう。

(7) a. 本日限りで辞めさせていただきます。
　　b. 中継を切らせていただきます。

(7a)の話者は、「本日限りで、辞める」ということを伝えているが、この命題を発することにより「明日からは働かない」といった新しい事態をもたらすことができる。このように宣言型の発語内行為に「～(さ)せていただく」が共起していることがわかる。また、(7b)の話者は「中継を切る」ことを伝えているが、この発話と共に「中継中断」といったことが起きる。このように「～(さ)せていただく」は、宣言型の発語内行為と共起することがわかる。

次に、宣言型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現を見てみよう。(8a)(8b)は(7a)(7b)の日本語に対応する。

(8) a. ?? 오늘부로 그만두게 시켜서 받습니다.
onul-pwu-lo kwumantwu-key siky-ese pat-supnita.
a'. 오늘부로 그만둡니다.
onul-pwu-lo kwumantwu-pnita.
(本日限りで辞めます。)
b.?? 중계를 끊게 시켜서 받겠습니다.
cwungkyey-lul kkunh-key sikye-se pat-keyss-sup-nita.
b'. 중계를 끊겠습니다.
cwungkyey-lul kkunh-keyss-sup-nita.
(中継をお切り致します。)

一方、(8a)(8b)からわかるように、(7a)に対応する韓国語の(8a)は非常に不自然で違和感があり、これまでと同様に「~시켜서 받다(sikyese patta)」は用いない。(7a)の「～(さ)せていただく」は、韓国語では対応する文で(8a')のように「하다(hata)」が対応する。退職の申し出は、重大な決心であり、かなりの悩みと覚悟の上、行われる行為である。この場合、韓国語では(8a')のように「하다(hata)」で迷いなく明確に意思表明を行うのが自然である。そして、丁寧さを表す「ㅂ니다(pnita)」を付けると無礼な感じもしない。また、(7b)の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の(8b)も非常に不自然であり、(8b')のように韓国語では「겠(keyss)」という形態素が加わった「하겠다(ha-keyss-ta)」が対応されることがわかる。ここの韓国語の形態素「겠(keyss)」もこれまでと同様に「意志」や「婉曲」の意味を表すと思われるが、「하겠다(ha-keyss-ta)」を用いて、かしこまり、へりくだって伝える。つまり、話者は視聴者に向けて中継を中断する行為を自らの責任を持って丁寧に伝えていると考えられる。

以上のように、宣言型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語は、「하다(hata)」または「하겠다(ha-keyss-ta)」があることがわかる。

3-5 「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現のまとめ

本研究の考察は以下の＜表 2＞ようにまとめられる。

＜表 2＞ 「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現

	発語内行為分類	対応する韓国語
1	断定型における「～(さ)せていただく」	하다(hata)
2	指示型における「～(さ)せていただく」	하다(hata), 하겠다(ha-keyss-ta)
3	拘束型における「～(さ)せていただく」	하다(hata), 하겠다(ha-keyss-ta)
4	宣言型における「～(さ)せていただく」	하다(hata), 하겠다(ha-keyss-ta)

上記の結果のように、日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」が韓国語の「하다(hata)」に対応される点は、김용각(2017)の指摘を裏付けており、さらに本研究では具体的には 4 つの発語内行為において対応されることを示した。つまり、断定型、指示型、拘束型、宣言型における「～(さ)せていただく」に韓国語の「하다(hata)」が対応した。つまり、韓国語では話者自身の行為を表す「하다(hata)」でキッパリと言い切って簡潔に表現するのがわかった。ところが、指示型と拘束型と宣言型における「～(さ)せていただく」に対応する韓国語は「하다(hata)」の他に「하겠다(ha-keyss-ta)」も対応している。「하겠다(ha-keyss-ta)」は、「하다(hata)」に「意志」や「婉曲」を表す「겠(keyss)」という形態素が加わった形態であるが、丁寧にかしこまって、婉曲に伝える表現であると考えられる。

4. おわりに

日本語の待遇表現「～(さ)せていただく」は、現在でも韓国人日本語学習者にとって奇妙で難しい文法項目である。また、日本の敬語の変化と共にその使用が爆発的に拡大される中、もっと多くの場面で遭遇する可能性があり、これに関する日韓語用論的な分析の必要性が大きいと感じる。

本研究では、これまで日韓対照研究においてあまり注目されず、単に日本語独特の言い方として取り扱われていた「～(さ)せていただく」を取り上げて、それに対応する韓国語の表現を考察した。特に本研究では、Searle(1979)の発話行為理論における発語内行為の分類に基づいて「～(さ)せていただく」を分析した李鳳(2020a)の研究を受け、日韓対照の観点から対応する韓国語の表現を記述的に分析した。まず、李鳳(2020a)では、断定型、指示型、拘束型、宣言型の 4 つの発語内行為において「～(さ)せていただく」が共起することを示した。そして、本研究で「～(さ)せていただく」の 4 つの発語内行為に対応する韓国語の表現を考察した。その結果、断定型の「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現は「하다(hata)」であることがわかった。また、指示型と拘束型と宣言型における「～(さ)せていただく」に対応する韓国語の表現は、共通して「하다(hata)」に加えて「하겠다(ha-keyss-ta)」もあることがわかった。このように「～(さ)せていただく」に対応するものとして、韓国語の「하다(hata)」だけではなく、「하겠다(ha-keyss-ta)」が存在することを掘り起こすことができた点は一つの成果と考えられる。

しかし、本研究の考察は、聴者の存在の有無、場面や関与する人の人間関係などを具体的に設定した上で行われた分析ではないため、まだ充分なものだとは言えない。本研究は、理論的な枠組みを用いた「～(さ)せていただく」の日韓対照研究のファストステップとして一側面を明らかにしたものとして位置づけられると思われるが、今後、ざまざまな角度からのさらなる考察が行われることを期待する。

最後に、本研究には以下のような 3 つの残された課題がある。

第一に、本研究の分析結果を検証すると共に実際の使用を調べるため、日韓並列コーパスで用例を調べながら、具体的な条件を基にして意識調査を行いたいと考えている。本研究で

の議論は作例とその翻訳によるものであり、本研究で得られた結果を実証的に裏付けることが必要であると考えるからである。

第二に、韓国語の形態素「겠(keyss)」の意味的な特徴をさらに検討したい。多くの先行研究で取り上げられているように「겠(keyss)」の意味分類は簡単ではないが、モダリティ的性質があり、依頼や命令などのように聴者のフェイスを威嚇する発話行為に対するポライトネス効果があることが示されている(李憲郷 2009)。今後、韓国語の形態素「겠(keyss)」が持つ語用論的機能に関して詳細に考察していきたい。

第三に、「～(さ)せていただく」が現れた各発話行為の特性を考慮しながら、「하다(hata)」と「하겠다(ha-keyss-ta)」が対応することに関して語用論的な考察を深めたい。同時に「～(さ)せていただく」を韓国語でそのまま対応させると不自然で違和感が生じる本質的な違いについて Brown & Levinson(1978/1987)のポライトネス理論から考察を進めて、日韓のポライトネス・ストラテジーの類似点と相違を明らかにしたい。

付記

本稿に執筆に当たり、北海道大学名誉教授の上田雅信先生と北海道情報大学の金銀珠先生に貴重なご意見をいただいた。また、英語と日本語の表現に関しては、本学の Nielsen Brian 先生と保坂智先生に多くの有益な示唆ををいただいた。ここに記してお礼を申し上げる。なお、言うまでもなく本稿の不備は筆者の責任である。

［ローマ字表記］

本稿で用いる韓国語のローマ字表記は、イエール式(Yale Romanization)による。

引用文献

井口裕子(1995)「謙譲表現『…～(さ)せていただく』について―結婚披露宴における使用例を中心に―」、『国学院雑誌』、96 巻 11 号、pp.54-66。

井上史雄編(2017)『敬語は変わる－大規模調査からわかる百年の動き』、大修館書店。

李吉遠(2010)「日本語『～ていただく』の韓国語機械翻訳における問題の実際と代案―ビジネス日本語の E-mail の内容の分析を中心として―」、『日語日文學』、48 輯、pp.265-283。

林八龍(1980)「日本語・韓国語受給表現の対照研究」、『日本語教育』、40 号、pp.113-120。

李鳳(2014)『「思う」と「생각하다」の日韓対照研究―ヘッジとポライトネスの観点から―』、北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士論文。

李鳳(2017)「『許可求め』の使役形の「－(サ)セル」と「－게 하다」－ヘッジとポライトネスの観点から－」、『韓国語教育研究』、7 号、pp.86-105。

李鳳(2020a)「日本語の待遇表現『～(さ)せていただく』に関する考察－発話行為理論の観点から－」、『北海商科大学論集』、9 巻、1 号、pp.21-33。

李鳳(2020b)「日本語の待遇表現『～(さ)せていただく』の語用論的機能について」、『比較文化研究』、140 号、pp.49-62。

李憲郷(2009)「韓国語の先語末語尾‘-겠-’の対人的機能について―ポライトネス効果を中心に―」、『朝鮮学報』、212 輯、pp.103-127。

金銀珠(2010) 『日韓統語論の対照研究―ヴォイス、テンス・アスペクト、モダリティを中心に―』、北海道大学大学院国際広報メディア研究科博士論文。

茜八重子(2002)「『～(さ)せていただく』について」、『講座日本語教育』、第 38 分冊、早稲田大学日本語教育センター、pp.28-52。

宇都宮陽子(2005)「『待遇表現』としての「～(さ)せていただく」に関する考察」、『早稲田大学日本語教育研究』、6 号、pp.29-44。

菊地康人(1997)「特集；ポライトネスの言語学　かわりゆく『させていただく』」『月刊言語』第 26 巻、第 6 号、大修館書店、pp.40-47。

魚秀禎(2011)「韓国人日本語学習者の授受の補助動詞の習得について」『日本語文学』、53、한국일본어문학회、pp.103-118。

椎名美智(2017)／加藤重広・滝川真人（編）「『させていただく』という問題系」、『日本語語用論フォーラム 2』、ひつじ書房、pp.75-105。

椎名美智(2021)『「させていただく」の語用論』、ひつじ書房。

椎名美智(2022)『「させていただく」の使い方 日本語と敬語のゆくえ』、角川新書。

塩田雄大(2016)「“させていただいます” について書かせていただきます～2015 年『日本語ゆれに関する調査』から②～」、『放送研究と調査』9 月号、NHK 放送文化研究所、pp.26-41。

鄭秀賢・崔善喜(2010)「拡張していく『させていただく（スル形）』の意味機能と発話意図」、『日本語学研究』、29、pp.229－245。

滝浦真人(2016)／加藤重広・滝浦真人（編）「社会語用論」、『語用論研究法ガイドブック』、ひつじ書房、pp.77-103。

山岡政紀(2008)『発話機能論』、くろしお出版。

김용각(2013)「한국인 일본어 학습자의『～ていただく』의 오용실태를 통한 효과적인 지도법」、『日本語教育』、64 巻、한국일본어교육학회、pp.1-13。

김용각(2017)「일본인의『～させていただく』사용실태에 관한 고찰」、『日本語教育』、82 巻、한국일본어교육학회、pp.105-119。

Brown, Penelope and Stephen C. Levinson (1978/1987)*Politeness: Some universals in language usage,* Cambridge:Cambridge University Press.

Daniel Vanderveken(1994) “*Principles of Speech Act Theory*”, Cahiers d'épistémologie, Université du Québec presse de Montréal.［久保進訳注(1995)『発話行為理論の原理』、松柏社。］

Fraser, Bruce(1975) “Hedged performatives” In Peter Cole and Jerry L.Morgan (1975) *SYNTAX and SEMANTICS 3*：*Speech Acts*, pp.187-210, New York :Academic

Press.

Fraser, Bruce(2010) Pragmatic competence: The case of hedging, In Wiltrud Mihatsch and Stefan Schneider(eds.) *New Approaches to Hedging*, pp.15-34, Bingley: Emerald Group.

Itani, Reiko(1996) *Semantics and Pragmatics of Hedges in English and Japanese,* Hituzi Syobo.

Lakoff, George(1972) Hedges:a study in meaning criteria and the logic of fussy concepts, *The 8th Regional Meeting of the Chicago Linguistic Society*,pp.182-228.

Searle, John R.(1979)*Expression and Meaning : Studies in the Theory of Speech Acts*, Cambridge University Press.

Yang Huang(2007) *Pragmatics*, Oxford University Press.